

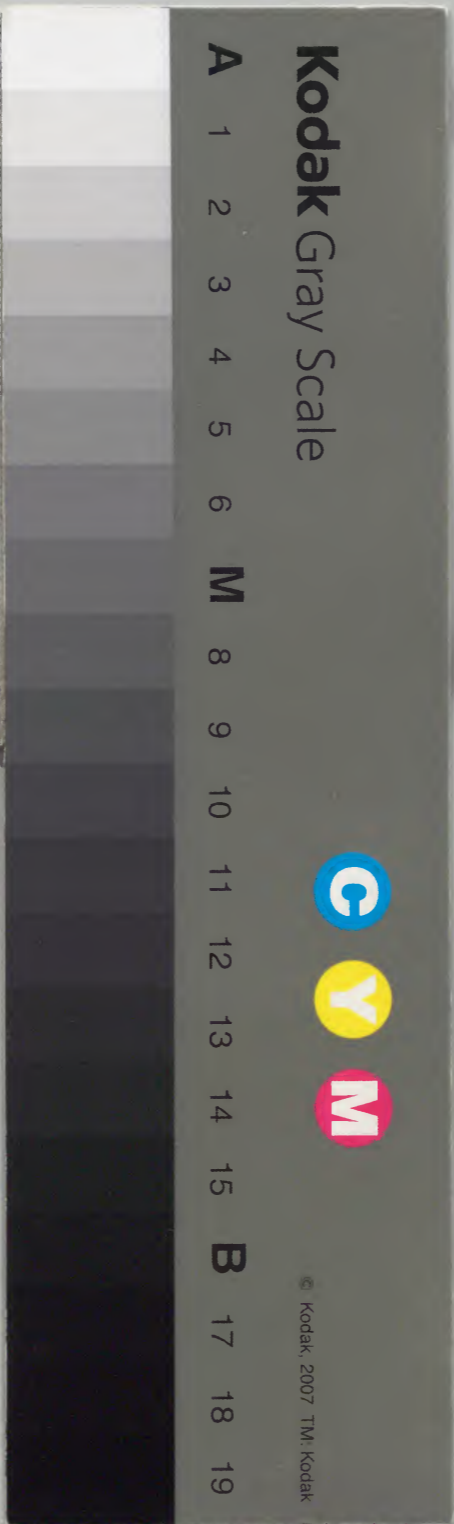
唐土訓蒙圖彙

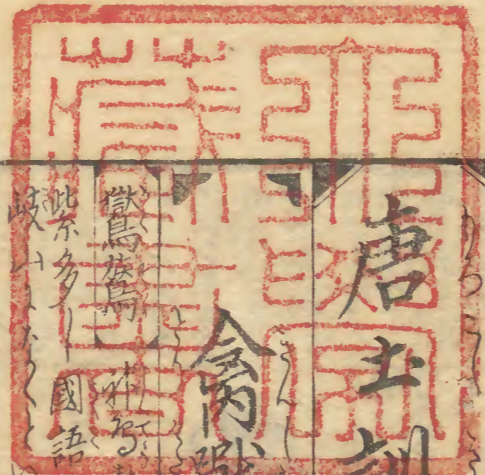
禽獸
十三

和書門	
一八六三七號	類
一八二函	架
一三冊	冊
一五冊	冊

內閣文庫	
一八六三七號	和書類
一五冊	架
三四函	冊

內閣文庫	
番號	和 18637
冊數	15 (14)
函號	184 359





鸞
此鳥多
國語
周の
鳥

唐

訓蒙圖彙

卷之三十三

庫

禽獸

此鳥は山川林地の原の鳥すべし
と云ふものなり

世樂鳥

南方より出づる鳥五三

丹喙赤首は冠あり王者明德あり
天下太平なる時あり



秦吉了
形鶴形
仰々を向
頂の毛縫
ありて人乃
髪のおしく
心しくお
乃てわむ
乃ての兒
女のしく秦
吉了の丈夫
乃て
又一種あり
そを緋色
肉冠を
人の取の
肉とありて
黄文あり
嘴赤く距
黄くあり



甘藷鳥
こら
哥に似
小
ぬれも能
言
い
交趾
いほふ

鶴鳩
一名鉄鸚
鳩といふ
形鳥
より小は七
寸を
三月
かく農人
以て
候と云



海東青 此鳥
お麗なり
ゆふあふりて
ゆとつとわす
みて赤い
と旋風の如
い
の性ありて
をといふた
とハつとま
鷹隼。鶴の事
別家図景は
故に載に
鵬
此鳥
性義あり
凡ち
こつ胸
と以て
の足とわ
よ
と能く
る
といへ



秋鳥

一名扶老
鶴の廣
五六尺
長頸赤
目紅項
皆毛
是凡鶴の
色也

水禽

水禽之
孔雀の
長尺餘
口勾り
二体
酒器
木葉
麝香



乾雞

項金色
嘴紅
其色
三日
去て
九月
此鳥

陽鳥

鶴の
殊小
身黒
頸長
て



昆鷄

鶴の
白
頷長
赤
喉
悲鳴

鷓鴣

鳥の類
田
生



玄鶴

その色
音
帝樂
崑崙山
鶴

旋目

大
如
み
深
同
毛
選
上
林
賦
の



方目

水鳥類
白く白肉冠
あり足の指
鴉も似く
ひらく足
赤黒く
いさよ大
小あり

蒼鶻

善高く飛
て序々何く
そと蒼白
なり目相
較る孕む
吐て子を
うむ



白鶻
鶻の類り
その色白
形ハ鴨
つもらぬ
さしあ
りひみ
なすい
る

屬王



水鳥鴨
似て大
長頸赤目
紫紺鶻
鶻ハ川
漠り
観る
名

鶻鳥

鶻鳥
白く人
て白鶻
と似る
然るれど
凡そ水
舟
首は
百鶻
なり



鶻鶻
一名陶河
名鶻澤水
沈魚と
ハ鶻
ハ別
形鶻
似て大に
して灰色
なり

鶻

鶻
鳥に似て後
指かす鶻
文わり鶻
鳥に似る
を激して
を御す



信天翁
狀鶻に似
長く水
際を遊
う魚
とされし
陸日魚
され九地
信天翁
同類
和名
フキタウ



鷓鴣

水鳥雁乃屬長頸綠色其形厚似其羽裘一種狀如乃一稍大足短指前似之



非羽翠

其形魚狗上似大羽水色に居魚と云う或ハ冠羽灰之ハ前脚集り或ハお非羽



嗽金鳥

昆明國出川形雀も加色黄之魏の明帝の時末里献に真珠と海榴と餌を常に金屑をく



鶉

形ハ雀了似て尾長好々葦の皮と翫て中脚と足月の間多し



蒿雀

麻雀に似て黒色ついで蒿の間在る故その名ありと食て諸雀より美なり



黃鳥

形ハ鶉に似て尾長好々葦の皮と翫て中脚と足月の間多し



突厥雀

大ニ鶴の如形雌雄一氣後趾あり尾の岐あり好て群る



繡眼兒

形小く月白く月から海まで如し色を好て群る



鶺鴒

此鳥小く七
高く挙る
よりて中は
改射候よ
とさわらそ
務ん
此をよ交
くくとうと
すい非こ



正

正ハナカラ
鶺鴒小く
て飛と疾
して寂射
候故
布侯盡
して
ふれと
射



唐訓家園集卷十三

反舌

反舌
五月
至て止せ
と及易れ
百鳥の鳴
み效し又百
舌も名

松鴉

松鴉
の如く
黄毛冠
ありて類ハ
新儀の如
杉樹の上
におど



民眠母

民眠母
大さ鶺鴒の如
黒色に南
方池澤の
井菰の中
に生れ其色
人の吐する
其ふ
た故二二
律と吐か



鳴鶺

鳴鶺
その形鳥
の如く
赤色を
御火と



鶺朝

鶺朝
その形を
鶺朝
その目
似たり尾ハ
屈候ねん
経緯の如
あのも切
あつと
あのみ



鶺

鶺
青要山
鳥あり狀
鳥の
身
赤尾
りり
と食し子
孫



華虫

つらつら
は似て小
冠背毛美
は項上毛色
鮮明脊腹
洞赤雉子
のこころひ
是十二章
は五が物



唐土訓鳥類書卷十三

鶉

雉類七
大は黒色
首は毛角を
冠のめし
性を堂を
むしと
すふて死
といふ



當尾

そのこら
け子の如
うて尾ハ
芭蕉に似
たり人食
とんハ
目
るに



潔鉤

そのこら
鳥のこら
尾ハ亂り
似たり
木
とんハ



鶉

鳳は似く
神鳥なり
郁離子曰
南方神鳥
なり五彩
の形と
はん



精衛

神農の
女娃と名
けく苦海
に坐し溺死
し化して粒
一化して粒
に西山の木石
と收て赤海
と海と云ふ



鸚鵡

鸚鵡は似く
不祥の鳥
を魚と
を状小
うして雉
のこころひ
文采あり
接八北越三
イハルサ



青耕

そのこら
糖のこら
自家自首
尾ハ度と
樂へし
鳴こころひ
るに



世窓日記永く讀耕に倦む書冊を枕して宰予と學ん
とらぬ息らぬあり桑樞と啓て入る寒暄畢て後札上の料
稿と揃て閑々禽部よりを遊と掩て嘆く且怪とて日
今此圖の如きものありお人論ありて未圖とあるもの多し
多しと云ふ多しと云ふ亦彼大鵬のこゝに壯周既に存
王所探て圖に今出ると載るの遺忘しと云ふありと云
將疑しと云ふ閑々清く其後と閑々と閑々佛と云ふ
曰る何必大鵬と云ふや夫鸞鶴の禽中靈秀
して聖代は出て岐山よから鸞鶴人の中聖賢と云ふ
大鵬の禽中の怪物小海に出る九天と高く從人中有り
中壯老と云ふ一と云ふ流皆奇誕荒唐なり故に今吾を
屏け疑ふと閑々惟々の質の知やれくして未圖と云ふ
も乃と世の希有の一と云ふ閑々地と云ふと云ふと云ふ
是も亦格物窮理の一助なりとの況又王所も知く
圖すれはわれも亦窮理の一助なりとの況又王所も知く
やうと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

麋

麋畜けり信うて礼に應じ狼
の額赤き目五の蹄仁と合之義
と懐之音鐘呂一中を行規知りあり



白澤

東望山は洪
獸あり能言語
王者徳幽遠と
照以時に至る
黃帝巡狩
東海に遊ぶ時
此獸言語
黒然



龍馬

馬公人のと龍を昔伏羲の時に
黄河より流るゆき背は旋むあり
下り舟にのりて伏羲をれよりて八卦と畫し
とまふの河圖の畫なり



白澤

仁獸也後より
大に体三天
すは鼻孔
天にむくふ
肉は木上を
尾は真とふ
うくも毛長
柔く白黒文
天子衣衣十
二章ありあ
宗彙られし



金猊

形獅也
其性火烟
とたむ故
香炉の蓋
乃上り立つ
世に獅子の
香炉といふ
わきまを
視たり



類

狀ハ釋の
髪あり
北牡と
是とら
へんし
姑まら



三角獸

西凸山イ
三角獸
瑞獸なり
先王法度
脩明なる
時ハ



角端獸

東山は角
獸ハ瑞物
やう六合天
下はく太
平なれし
わくえの
の時ハ



擣杵

獸の至て
悪者ハ擣
と好ん死
三ノ毛狀ハ
虎の毛
の長三尺
虎爪日牙
八尺人と食



龜

虎の屬シ
立秋の月
獸と多
柳文曰龜
虎ハ虎を
畏しと云
と云



豹

豹の類
猛獸なり
國よ公詩
經曰獸其
皮陸機曰
豹ハ虎に似
或ハ熊に似
たり



赤豹

脊山は
虎に似文
采あり毛
赤毛詩
宣王の詩
赤豹黃
斑



熊

狀如人似
白文而毛
脚如人
性極慈多
於人のよく
とて

人と
害に

獲

色青黒
能人と獲
持は長七尺
人のよく
て健く走り
或は根六百
歳りつひ
考まると云



猿

狀如人似
身毛黒
足舞り性
好舞と性
又と怒と
すり攻と殺
せと百と
は

獅

後の属
馬牙の
腰白と常
の毛わり
長毛わり
白色と大
握版乃狀
み似と
捷と能
乃



野干

狀木根
熱し頭
正上方
人似り
髪の長尺
俗常
向と
りのと
まのと
いら

獨

形移
て大
よく後
とら
柄
して
し
と



蒙

狀ハ稚
小兒の
赤黒色目
赤く身長
く髪
川澤乃
神なり

魁

狀ハ三
小兒の
赤黒色目
赤く身長
く髪
川澤乃
神なり



麋

麋の鹿に似たり
鹿の角と必
必して鹿は
翻てありむ
鹿草より毛
長く尾物の
なまり



茶百机

その状鹿に
似てあり
よく毒草
とりり○
又一種ハ状
鹿に似たり
後主あり
一頭ハ食し
一頭ハ食く
といひり
矢と薬



挑抜

鹿に似たり
尾長く角
ひらりあり
これと天禄
とに両角
かゝるものと
辟邪
一名扶掖



麋

鹿に似て大
なり其尾ハ
麋と辟く
茜帛を
中に容え
歳一とて
も色と
黠といひり



比肩獸

西方に獸
なり其狀
鹿に似たり
後ハ兎に
一名ハ
恐り
麋



狡兎

狀兎の如し
雄ハ黄ト雌
銅鉄ト丹石
昔呉王
の武庫の兵
器とらり
是とあり
後中附機
は疾なり
といふ



隱鼠

大さ牛の
如く形ハ
鼠に似たり
脚ハ鼠に
似たり蹄ハ
鼠に似たり
所ハ毛獨
色ハ白
て



碩鼠

形ハ兎に
似て眼ハ
白ト耳ハ
白ト尾ハ
黒ト向
和名
栗鼠



天馬

馬成山子
獸あり狀
白犬の如
りて頭ハ
黒し
人そと
とれハ飛
び獸と
とれハ
豊穰



猛狗

南山は獸
能く似て毛
彩ハ之澤
あり
今
洞



矮巴狗

番國
似ては
身あり
尾ま
長人
一名
馬
哈



木狗

此物
の皮
も
氣血



復犬

天門山
あり天
流
生
十
凡
野
光
び



諸捷

單張山
あり狀
のめ
尾長
目直
少



當庚

欽山
歌
豚
其
自
天



兼

狀ハ
白首
なり
大
風



猛棍

譙明の山
狀類
赤
毫
鼯鼠



鹿蜀

相陽の獸
あり狀馬の
白首
虎文あり
尾赤く多
人此皮
為子



驢

獸あり狀
馬首
角
石と
錯



驘

驘
馬より
あやうり
舊中
産す
乃奇



旄馬

南海の外
あり狀馬
の如く
尾赤く多
人此皮
為子



山驢

角八
從
や大



果下馬

此る海
極て小
小
のり
果



海驢

狀野の如
秋月
のり
皮の製
て馬具と
あはへ



羴

西方の野羊状駘の其角甚大夏の時塵をその角上より落すと生毛これと先とを毛



唐土訓蒙圖景卷十三

封羊

形は羊の肉とく総此如故



羴羊

羴山ノ獸なり状羊の如く羊の尻の肉を割ると



十六

羴

句山ノ獸なり状羊の如く其性



葱犍

符遇山ありさあ羊一なる首



一封駘

形は鹿の肉とく



野波

南方丹波に山あり其山に野波なる人あり其性



山獠

西方深山に人あり長髪裸形



